

2023年11月6日(月)

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

## オリザ油化のイチゴ種子エキスに関する特許が 発明表彰を受賞しました。

オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市、代表取締役:村井弘道、以下「オリザ油化」)が2008年5月に上市し、今日まで国内外で販売している「イチゴ種子エキス」に関する特許 **「フィラグリン及びインボルクリンの発現促進剤(特許第6635615号)」** が令和5年度中部地方発明表彰にて **発明奨励賞** を受賞しました!

「イチゴ種子エキス」は、未利用資源の有効活用をトリガーとして研究開発がスタートし、食用可能でありながら果汁を絞った後の残渣として捨てられていた種子を原料として開発したエキスです。

受賞した特許は、当社の「イチゴ種子エキス(有効成分:チロロサイド)」が皮膚の保湿・バリア機能に関与するフィラグリン<sup>※1</sup> およびインボルクリン<sup>※2</sup> の発現を促進することを見出し、皮膚炎の予防・治療剤として取得したものです。

本特許の基になる研究結果として、当社では京都薬科大学の松田久司 名誉教授および宇都宮大学の芋川玄爾 特任教授との共同研究により、イチゴ種子エキスに以下の作用を見出していました。

- ✓ ヒト表皮 3D モデルにおけるフィラグリンタンパクの発現促進<sup>※3</sup>。
- ✓ 上記 3D モデルにおけるインボルクリンタンパクの発現促進<sup>※3</sup>。
- ✓ イチゴ種子エキスから有効成分チロロサイドを単離精製し、これが果肉に含まれない種子特有の成分であること、エキスにおける上記作用の活性成分であることを確認。

これらの結果より、**イチゴ種子エキスの保湿・バリア機能改善作用メカニズムが明らかとなり**、皮膚炎の予防・治療剤として特許化していました。

本特許が受賞した令和5年度中部地方発明表彰は、地方発明表彰の一つであり、全国を8地方に分け、北海道地方発明表彰、東北地方発明表彰、関東地方発明表彰、中部地方発明表彰、近畿地方発明表彰、中国地方発明表彰、四国地方発明表彰及び九州地方発明表彰を実施し、各地方において優秀な発明の完成、発明等の実施化への尽力、発明等の指導、育成、奨励への貢献における功績を称え顕彰するものです。この度当社が受賞した発明奨励賞は、発明等の指導、育成、奨励について顕著な功績のある者を対象として贈呈されるものです。

尚、受賞に際しては令和5年11月17日(金)にANAクラウンプラザホテル金沢にて表彰式が行われます。

オリザ油化では、このたびの発明表彰受賞を受けて、当社の主力製品のひとつである「イチゴ種子エキス」についてさらなる機能性エビデンスの構築を通じた世界の人々の美と健康への貢献に邁進していく所存です。

■受賞内容

令和5年度中部地方発明表彰

発明の名称:「フィラグリン及びインボルクリンの発現促進剤」

賞の名称 :「発明奨励賞」

表彰式 : 令和5年11月17日(金) 12:00～ (ANA クラウンプラザホテル金沢)

■補足・解説

※1 フィラグリン: 表皮の内側から外側に向かって成熟するタンパク質。

角質層において天然保湿因子 (NMF)となり、保湿に寄与する。

※2 インボルクリン: 表皮細胞を保護する周辺帯 (cornified envelope) の主要構成因子としてバリア機能に寄与する。

※3 タンパク発現解析: ウェスタンブロットング法による解析を実施した。

— オリザ油化のイチゴ種子エキスについて —

◆廃棄資源を利用したアップサイクル原料!

オリザ油化の「イチゴ種子エキス」は、イチゴ果実から果汁を絞った後の残渣に含まれる種子を原料として製造しています。本来捨てられる資源を活用したアップサイクル原料で、SDGsにも貢献しています。

◆豊富なエビデンス!

オリザ油化の「イチゴ種子エキス」には、本リリースで紹介したフィラグリン、インボルクリン増加作用以外にも、角層セラミド増加作用やヒアルロン酸合成促進作用が確認されており、様々なメカニズムによる保湿・バリア機能改善作用が期待できます。ヒトモニター試験においても肌の水分量増加作用が確認されています。



イチゴ果実



イチゴ種子